

# 日々の暮らしで気になる “壁”

ながい さちこ  
永井 幸子 ●UAゼンセン 副書記長

今年の春は勢いが違います。この欄を書かせていただいて3回目の春ですが、右肩上がりで賃上げの機運が高まってきました。UAゼンセンの「闘争状況ボード」にも「満額」の文字が並び、多くのマスコミからの取材も受けました。これまでの間、労使が真摯に企業の状況や労働環境について話し合ってきたことの結果だと思っています。この流れを中小企業や労働組合のない職場で働く労働者にも広げることが、我々の重要な役割です。

賃上げ闘争の日々の暮らしのなかで気になっていることが2つあります。“壁”です。

1つ目の“壁”は、「価格転嫁」「適正価格」です。自分の日々の暮らしは愛犬とともにありますが、ここ最近、ドッグフードの価格が変なのです。コロナの頃から値上がりしているのですが、いつも買っているフードの値段がこんな感じです。Aスーパーでは150円、Bホームセンターでは24個買ったら1つ99円、ネットでは200円…このフードの適正価格は結局いくら？価格転嫁できている？フードを手にしつつ心配になってきました。

今の段階では中小の賃上げも進んでいる状況（UA）ですが、政府の対策や労使の取り組みが進むなかで、今年は企業規模間格差が是正された、と振り返ることができるよう、引き続き労使の取り組みを支援していくことが必要です。できることをしていきたいです。

2つ目の“壁”は、いわゆる“年収の壁”です。賃上げとの関係は深く、扶養の範囲で働き

たいため上限額を超えないように労働時間を調整するので、賃上げや最低賃金改定が喜ばれない事態となっているとの現場からの声を聴きます。パートタイマーや契約社員等の政策・労働条件を担当し、社会保険と最低賃金の双方に関わってきた自分にとっては目下最大のテーマですが、この問題は奥が深く複雑です。

UAゼンセンは2024賃金闘争方針に“「年収の壁」への対応を行う”ことを盛り込みました。

「税・社会保障制度に関して組合員に正確な情報を伝えるとともに、キャリアアップ助成金等を積極的に活用し、賃上げや労働時間の延長を組み合わせることで手取り収入の減少を補うよう、労使で対応を協議する」という内容です。今年初めて盛り込んだものではありませんが、賃金引き上げに関するものとして記載したのは初めてです。キャリアアップ助成金については「年収の壁・支援強化パッケージ」の活用について厚生労働省の担当者を講師に招いた労使セミナーを開催し好評を得ました。労使で認識をともにし、年金においては基礎年金に報酬比例の厚生年金をオンすれば老後を少し豊かにできる、そういった周知も引き続きしていきたいです。

“壁”を克服し、心豊かに安心して生きていける社会に暮らしていきたい（愛犬とともに）。今年の闘争に取り組むなかで、改めて改善しなくてはならないことの多さと、守ることの大切さを感じたように思います。今年の春は違ったな！と振り返ることができますように。